天明の飢饉
【てんめいのききん】

1782 年（天明 2）から 87 年の大飢饉。特に 83 年の浅間山の大噴火の影響が大きく、東北地方の被害が甚大であった。各地で一揆・打ちこわしが続発し、老中田沼意次の失脚を早めた。

- 幕末辞典 -